



Pure Pacific 純 No.205 パ Sep.2019

純パの会会報『純パ』第205号

2019年9月29日発行 / 発行:純パの会

祝・ライオンズパ・リーグV2 影山 一義

埼玉西武ライオンズがパ・リーグ2連覇を達成しました。ライオンズとしては21年ぶりの連覇になります。

昨年一度も首位の座を明け渡さずに、10年ぶりとなるリーグ優勝だったのですが、今年は初めて首位に立ったのが開幕から130試合目の9月11日。そこから13日後の9月24日に優勝を決めるといって、7月9日の時点で首位にいたホークスとの最大8.5ゲーム差をひっくり返す、鮮やかな逆転劇でのリーグ優勝でした。

しかし、今シーズンの開幕前に、正直ライオンズがパ・リーグを制覇できるなどとは、とてもではないですが、考えられなかったです。いくら過去にどれだけ主力選手がFAやポスティングシステムで流出しようとも、ちゃんとドラフトで獲得した若い選手たちによってその穴埋めができてしまうという実績(?)があるとはいえず、菊池雄星がメジャーへ、炭谷銀仁朗がジャイアンツへ、浅村栄斗にいたっては同じリーグ内へのイーグルスへと、一気に主力3人がチームを出てしまうという事態に。

その穴埋めをいかにするのかと思っているうちに、開幕3連戦でホークスにもやの3連敗でスタート。それでも、投手陣が4点取られても「山賊打線」が5点取り返すようなスタイルを維持しながら、勝敗の面であまり大崩れせず上位をうかがう位置につけていたので、個人的には優勝しなくても2位でシーズンを乗り切って、昨年リーグ優勝しながら敗れてしまったクライマックスシリーズでの雪辱を：って、見ている側の気分としては思っていたりしていたのですが(個人的にはこういうストーリーが実は好きだったりするのです)、最後のマツチレースを制することができたのは、たとえ戦力面、層の厚さで見劣りしても、のびのびと普段通りの野球を選手、監督、コーチ陣が一丸となって実践することできたチームの底力が、昨年以上に増して上がってきたのだらうと思っています。

で、問題は今後のクライマックスシリーズです。実は、どうもライオンズはクライマックスシリーズが、苦手なようです。昨年ファイナルステージをホームのメットライフドームで戦いながらホークスに敗れましたが、今年はそのホークスとレギュラーシーズン3位のイーグルスが、まずはファーストステージで戦い、その勝者とファイナルステージで戦うことになるのですが、今年のレギュラーシーズンではホークスにもイーグルスにも、ライオンズは負け越しています。しかもイーグルス戦では浅村に何本ホームランを打たれたことか(笑)

どちらのチームが出てこようとも、ライオンズには、今年こそなんとかクライマックスシリーズに勝って、パ・リーグの優勝チームとして、日本シリーズに出場して欲しいと願っています(個人的には2位でも3位でもクライマックスシリーズに出場したならば「下克上」を起こしてでも日本シリーズにも出場して欲しかったりするわけですが)。せっかくパ・リーグを制覇したのならば、久しぶりに日本シリーズにも勝って、11年ぶりの日本一を味わいたいですよ。ホントに。

そして、当然のごとく、次号の会報では、ライオンズの日本シリーズ制覇記念号を作りたいと思っっているのです(もちろん、ライオンズでなくてもパ・リーグ出場チームが日本シリーズを勝てば、日本シリーズ制覇記念号を作りたいと思っています)。

